



参加無料

# 第8回 川でつながる発表会

平成25年2月10日(日)  
11:00~16:00(受付10:30)  
練馬区立大泉南小学校  
〒178-0063 東京都練馬区東大泉6-28-1

## 主催・共催

- 新河岸川流域川づくり連絡会
- 新河岸川流域総合治水対策協議会

新河岸川流域内の学生が、川、水、環境について、日々の活動成果を発表し、さまざまな世代が川について交流する場として、発表会を開催いたします。

## ■プログラム■

- |         |  |
|---------|--|
| 11:00   | 開会   |
| 11:05   | 現地見学会  |
| (12:00) | 昼食   |
| 13:00   | 発表会/学校(小学生から大学生)<br>交流会/学校、市民団体、行政の取組みに関するパネル展示やクイズラリーなど |
| 16:00   | 閉会   |
- ※当日は昼食をご持参ください。

## 申込方法

氏名・職業／学校名・住所・電話番号をご記入のうえ、下記E-mailまたはFAXにてお申込みください。

申込締切 2月4日(月)必着

【申込先】新河岸川流域川づくり連絡会事務局  
日本工営株式会社 都市・交通計画部  
E-Mail:sogo-bosai@dx.n-koei.co.jp  
FAX:03-3238-8239

## お問い合わせ 新河岸川流域川づくり連絡会事務局

■国土交通省荒川下流河川事務所調査課  
TEL:03-3902-3220 FAX:03-3902-2346

■日本工営(株)都市・交通計画部 担当 鎌田 吉田  
TEL:03-3238-8257 FAX:03-3238-8239

## 事務局だより

## 第3回連絡会を開催しました!

11月9日(金)に第3回新河岸川流域川づくり連絡会が開催されました。第3回連絡会では、2月10日に練馬区立大泉南小学校で開催する「第8回川でつながる発表会」について、開催に向けた進捗状況を報告するとともに、官学民連携による開催に向けた開催内容について意見交換が行われました。

また、連絡会の後半には、各支川の代表から最近の活動状況や総合治水対策に関する分野連携などについて、活発な意見交換が行われました。



第3回連絡会のようす

## ■連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局  
(国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所調査課内)  
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1  
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346  
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>  
E-mail arage-shingashi@ktr.mlit.go.jp

## THE SHINGASHI BASIN NEWS

## 新河岸川流域しんぶん



発行 ●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)  
住所 ●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346  
発行日 ●平成25年(2013)1月18日

VOL.69



切り絵 毛利将範

## 川づくり連絡会に参加してみませんか?

新河岸川流域川づくり連絡会は、原則第2火曜日または第2金曜日で年4回程度開催します。参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

## しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などを手紙またはFAX・メールにて下記連絡先までお寄せ下さい。

## 目次

- |      |                             |
|------|-----------------------------|
| P2~3 | 新河岸川流域の活動報告 in 2012         |
| P3   | 連載:(9)気になる水循環               |
| P4   | 第8回川でつながる発表会 開催案内<br>事務局だより |
| P5   | 特集:水循環の“今”を知ろう!             |

冬の川は人が少ないせいか、鳥たちの姿をよく目にるように感じます。鳥たちの生活をのぞきに川へ足を向けてみてはいかがでしょうか。  
今号では、10~11月の川まつりを中心に新河岸川流域内の活動状況を報告します。連載では、学生さんからいただいた水循環に関する質問についての回答を掲載しています。特集では、現在新河岸川流域への展開が進められている水循環について、柳瀬川流域における水量・水質やフォローアップの状況を紹介します。

# 新河岸川流域の活動報告 in2012

今年も、新河岸川流域の各地で市民を中心とした川の活動が活発に行われています。今号では、10月から11月にわたって流域の各川で開催された川まつりや川づくりに関する活動のようすについて報告します。

10/20  
越戸川

## 「第 16 回 越戸川まつり」 【主催】和光自然環境を守る会

第16回越戸川まつりが越戸川・赤池親水公園で開催されました。開会式では、福祉戦隊ワコレンジャーが登場して会場を盛り上げました。その後、みどりのそよ風児童合唱団による合唱やオカリナによる美しい演奏や、参加者全員で『ふるさと』を合唱し、心温まる一時を過ごしていました。

毎年恒例のボート遊びや青空水族館にはたくさんの子ども達が集まりました。竹細工体験コーナーでは竹トンボで無邪気に遊ぶ姿が見られました。また、今年は復興支援企画として大船渡港に水揚げされた北海道産の秋刀魚が販売されており、大人たちが長蛇の列をつくっていました。

お父さんもお母さんもおじいちゃんもおばあちゃんも、そして子どもたちもみんなが笑顔になった越戸川まつりでした。

10/28  
白子川

## 「第 12 回 白子川源流まつり」 【主催】白子川源流まつり実行委員会

白子川源流まつりは、雨により練馬区立大泉南小学校の体育館へ会場を移して開催されました。ステージでは、“はらっぱ音楽隊”による合唱を皮切りに、源流ショー劇場と題して白子川源流・水辺の会が行っている川の清掃の紹介、練馬区立大泉南小学校4年生の生徒が調べた白子川の水質、遺跡、橋、生き物、植物についての発表がありました。

受付では、白子川にまつわるクイズが渡され、会場内に隠された答えを探す親子の姿が多くみられました。会場内には、白子川源流で見ることができる生き物、白子川周辺の昔の写真、雨水浸透の模型や練馬区に設置されている雨水浸透マスの数、練馬区の雨量など、地域住民全員参加で白子川の源流や周辺に関する情報発信を行っていました。

屋内でしたが例年に劣らぬ活気を見せていた源流まつり、最後はゴーバックサタデイズによる歌声で幕が閉じられました。

11/11  
黒目川

## 「黒目川・秋の川まつり 2012」 【主催】埼玉県朝霞県土整備事務所

黒目川・秋の川まつりが朝霞県土整備事務所で開催されました。「黒目川まるごと再生プロジェクト着手式」や「おやちやい村収穫祭」と同時開催ということもあり、会場は大勢の人で賑わいました。夏の川まつりでは川を使った企画が中心でしたが、秋の川まつりでは、埼玉県の事業説明パネルや市民団体の活動報告パネル、黒目川水族館、下水道の実験コーナーなど、黒目川を知るために工夫をこらしたブースが目立ちました。また、伝統投網漁労体験コーナーや AED の講習には大人も興味を示していました。地域と連携しながら多彩な内容が盛り込まれた、子供から大人までが満足できる秋の川まつりでした。

11/17  
新河岸川

## 「第 10 回 新河岸川流域川づくり懇談会」 【主催】埼玉県総合治水事務所

第10回新河岸川流域川づくり懇談会が、朝霞市リサイクルプラザで開催されました。国県市、川づくり団体など約50名の参加がありました。

懇談会では、平成24、25年度に新河岸川流域内で埼玉県が行う事業の工事内容や予定箇所についての説明や、リバーフロント研究所による多自然川づくりに関する講演、黒目川に親しむ会による第5回いい川・いい川づくりワークショップでグランプリを受賞した「人と人とをつなぐ川—子どもたちが遊ぶ川は、きれいになる」の発表、埼玉県による総合治水対策に関する取り組み紹介が行われました。

最後に協働による川づくりをテーマに、総合治水対策や多自然川づくりに向けた合意形成方法などについて国県市、川づくり団体などによる活発な意見交換が行われました。



※今回は流域内の活動の一部を紹介しました。流域内ではその他にも様々な活動が実施されています。また、市民の方々から写真を提供いただきました。



## 気になる水循環 (9) ~ 水循環 Q & A ~

水循環 Q&A では、水循環に関する身近な疑問について、関係機関の方に回答をいただきます。

今回は、北区立浮間小学校の生徒さんから寄せられた「水循環」に関する質問について、社団法人雨水貯留浸透技術協会の方に回答をいただきました。

A1

**Q1** 水はどうやって雲になるのですか?



A2

A2

自然の中で、森などに降った雨は、地面に浸みこみ、砂、粘土、砂礫できた地層のわずかな隙間を地下に向けてゆっくりと移動します。地層を移動している間に、地層がフィルターの役割となり、不純物や泥をろ過することで、自然の湧き水や地下水は不純物の無いきれいな水になっていくのです。



Q2

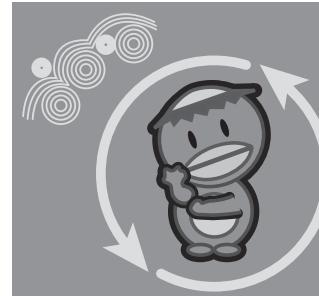
**Q2** 水はどのようにしてきれいになりますか?



一方、私達が生活で必要とする飲み水、風呂・トイレ・洗濯などへの大量的の水は、上記の地下水だけでは足りないので、河川や海から水を取り、浄水場などで人工的にきれいにしてから使用し、使った水は下水処理場などできれいにしてから河川や海へ戻しています。



なお、雨水は基本的にきれいなので、直接、タンクなどに貯留して、庭や車の散水や、自然災害時の避難場所での生活用水に使用することもできます。



# 柳瀬川流域を中心に 水循環の“今”を知ろう！



かせんしんぎかいとうしん しんがしがわりゅういき やなせがわりゅういき  
平成 11 年 3 月の河川審議会答申を受け、新河岸川流域では、柳瀬川流域をパイロットプランとして、健全な水循環の再生に向けた検討が始まりました。その後、平成 17 年 3 月に基本計画となる「柳瀬川流域水循環マスター プラン（以下、マスター プラン）」、平成 21 年 3 月に行動計画となる「柳瀬川流域水循環アクション プラン（以下、アクション プラン）」が策定され、現在はフォローアップが行われるとともに、新河岸川流域全体への展開について検討が進められています。

こんごう かか りゅうりょう すいしつ げんじょう  
今号では、柳瀬川流域を中心に、水循環と関わりのある流量や水質の現状や、「柳瀬川流域水循環アクション プラン」策定後、行政・市民により行われているフォローアップの状況など、水循環の“今”を紹介します。



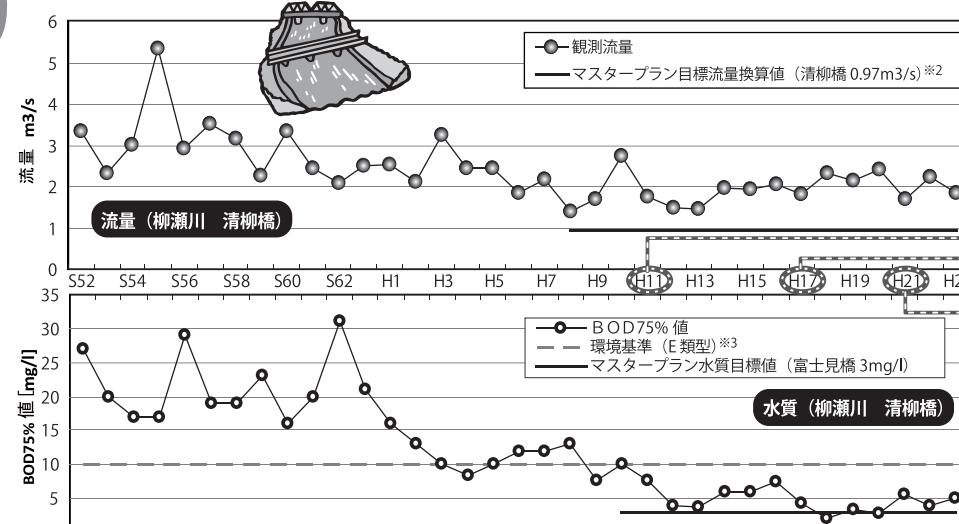
## 流量・水質の “今”を知ろう！

かせん かせん かせん  
昭和 52 年からの新河岸川流域における河川の流量・水質をみると、水質は徐々に改善する傾向にあり、マスター プランで設定した目標値になりつつあります。一方で、流量は減少する傾向にあります。

この現象が起こった一つの要因は、昭和 40 年代から始まった公共下水道<sup>※4</sup>の整備や昭和 50 年代から始まった流域下水道<sup>※5</sup>の整備であると考えられます。下水道整備前は河川へ流れこんでいた汚れた水が、下水道を流れるようになったため、河川の水はきれいになる一方で、河川の流量は少なくなっているものと思われます。

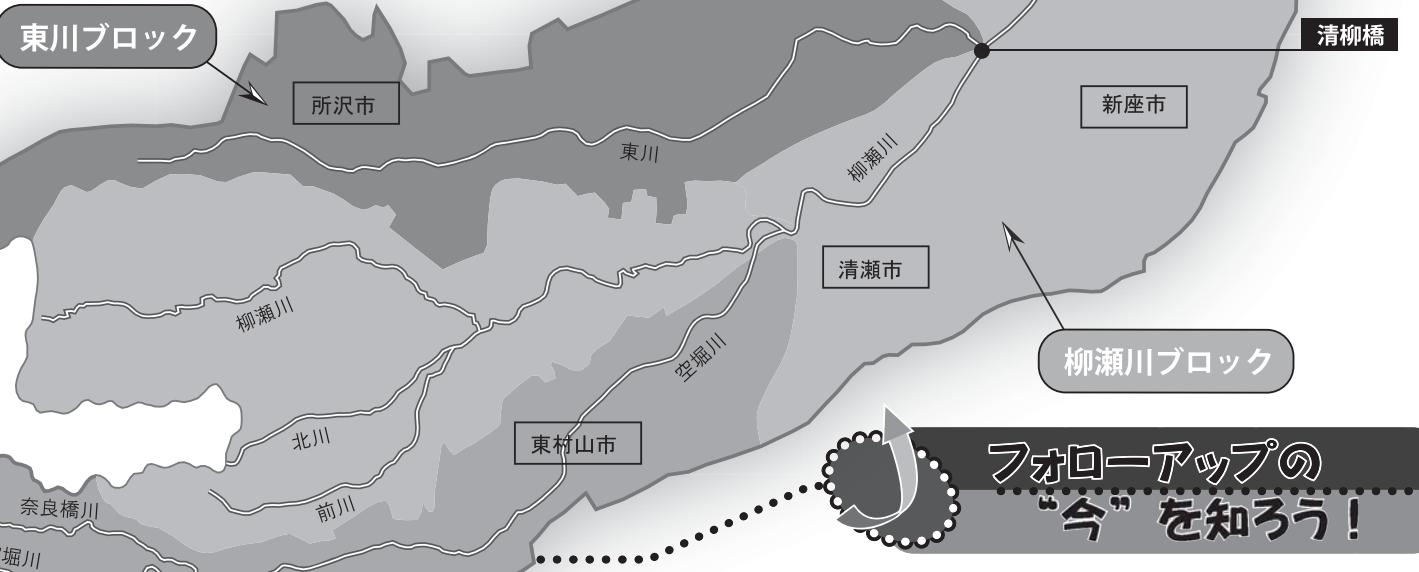
※4 市町村が建設し、管理するもので、各都市毎に家庭排水や工場排水を集め、終末処理場で独自に下水処理を行うもの。

※5 公共下水道で集められた下水を受け入れ処理する下水道で主に埼玉県、東京都が建設し管理を行うもの。



昭和後期から平成初期にかけて、水質は改善する傾向にあるが、流量は少なくなる傾向となっているのがわかるかな？

水循環再生に向けた検討始まる  
マスター プラン策定  
アクション プラン策定



フォローアップの  
“今”を知ろう！

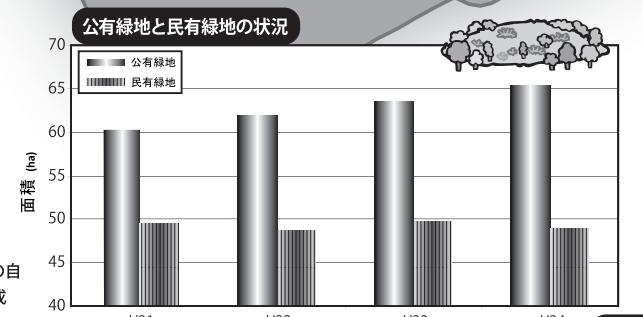
アクション プランについては、毎年、市民や行政の行った水循環再生に関する活動や取り組み、または、流量・水質のモニタリング結果などについて、行政幹事会と市民懇談会をそれぞれ開催し、フォローアップを行っています。

アクション プランの3本柱の一つである、「緑地・農地の保全」については、公有緑地の面積は増加していますが、民有緑地はわずかに減少しており、民有緑地の保全が困難な状況にある実態が浮き彫りになっています。

「雨水貯留浸透施設の普及」については、貯留浸透施設の設置件数が年々増加していることから、各自治体において着実に推進されていることがわかります。

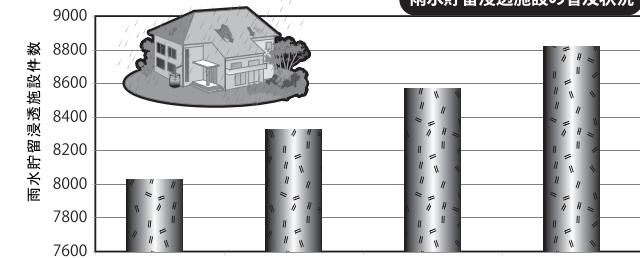
「市民活動の充実」については、市民懇談会に登録いただいた会員の方々や市民団体より、水循環に関する取り組みの報告をいただいている。

緑地・農地の公有地化は徐々に進んでいるようだけど、民有緑地の保全をしていくことは困難な状況にあるんだね



※フォローアップにおける柳瀬川流域内の自治体への実施状況調査結果をもとに作成

平成 24 年度から浸透施設置の助成を始めた自治体もあるみたいだね。



※フォローアップにおける柳瀬川流域内の自治体への実施状況調査結果をもとに作成

※各年度の累計値を掲載